

令和5年度第4回朝来市地域包括ケアシステム推進会議録

日時：令和5年3月27日（水）13:30～15:30

場所：本庁舎 401・402 会議室 司会：足立 記録：藤原

参集者：中山会長、須磨副会長、前田委員、足立委員、小島委員、小森委員、谷口委員、濱田委員、笠垣部長、加茂川副課長、馬袋課長、足立副課長、藤原課長補佐兼係長、小畑主任、田路主事、北野専門員

1 開 会 足立副課長

2 あいさつ 中山会長

地域包括ケアシステム推進会議に、お忙しい中集まりいただきありがとうございます。あれもこれれもと忙しい会議ではありますが皆さんのご協力を得て成り立っていることに感謝いたします。この会議は懇談会ですので、自分の意見を出していただきますようよろしくお願いいたします。

3 議 事 進行：中山会長

(1) 報告事項

①第8期介護保険事業計画の評価 資料1

詳細は、資料1参照。

②第9期介護保険事業計画の評価 資料2

《質疑応答》

馬庭委員：地域包括支援センター部分となっているが、会議自体は、介護保険に関わるところが全然無い。地域包括ケアシステム推進会議の議論すべき範囲を確認したい。

また、介護保険関連のことがなく、地域包括支援センターの事のみとなっている。会議の範囲、報告されてきている範囲の整理をして欲しい。

中山会長：介護保険料は、この会議体で検討することではないことは分かるのですが、どこまでの範囲を検討するのでしょうか。

事務局：新体制デザイン図を参照ください。各会議体からの課題等を事務局会議でまとめて、抽出されたテーマを地域包括ケアシステム推進会議で議論するという仕組みとなっている。

中山会長：介護予防は明確には書いていないが、ケアマネジメント支援会議や地域づくり会議などで、少しは議論している。明確に記載していないが、検討している結果は、何等かの形で介護保険審議会等でも検討していると思われる。

事務局：介護予防を取り扱わないわけではない。テーマとして、この場で検討する方がよいのか、この場ではないの他の会議体で検討する方がよいのか、令和6年度に向けて検討していきたい。

馬庭委員：それはどこで議論する方がよいのか。介護予防の作業部会をどこにぶらさげる方がよいのか。イメージしていたのは、高齢者の健康施策の現場視点での課題を、地域包括ケアシステム推進会議でまとめて検討すると認識していた。介護予防全般に触れることがなく、会議が進んでいくことを危惧していた。そういう議論をする場がどこなのか。

高年福祉課：介護保険審議会の中でも、分科会の案がでており、少人数で話を検討する場ができればよ

いと思っている。地域包括ケアシステム推進会議の中で検討できるのであれば、この場で議論することも良いと思う。

小森委員：今までは、ふくし相談支援課に高年福祉課と課が分かれていたが、来年度は、地域包括支援センターが高年福祉課内となるため、地域包括システムデザイン図に即して検討し、具体的な事業に落とし込むことが必要と思う。今の現状を分析し、先を見据えたサービスを検討する必要があると思っている。

馬庭委員：具体的な事業に落とし込むルートがない。それぞれの課が、別々に行っていくのではなく、一緒に行っていく必要はある。

事務局：ワーキングの必要性を感じている。どこかで必ず話し合いの場を作り、施策展開できるように検討していく予定であり、高年福祉課内で検討しお返事することでよろしいでしょうか。

馬庭委員：本来、地域包括ケアシステム推進会議レベルで話し合わないといけない。会議のための会議になっている。介護保険事業計画の策定が終わったが、最上位機関である地域包括ケアシステム推進会議で介護予防も含めて検討して欲しい。地域包括ケアシステムに関する資源開発と書いてあるが、そろそろ縦割りは止めて、担当が違うからとかは止めて一緒に進めていく必要がある。いつぐらいまでに検討してもらえるのか。

事務局：どのような組み立てをするのかは少人数で協議をし、どのようなデータを持ってどのように検討するか。どこの位置づけにするかは、こちらのことなので内部で検討します。

内部協議し、4月の終わり頃までには方向性を検討したい。

中山会長：それでは、4月の終わりごろまででよろしくをお願いします。

(2) 協議事項

◎朝来市全体の地域課題を地域ケア会議のデザイン図に沿って検討します

『中等度以上の認知症の人が在宅生活を継続するために必要なこと』

※中等度以上・・・認知症高齢者の日常生活自立がⅡb以上 資料3

中山会長：アンケート中で、具体的な事例はあるのか。

事務局：アンケートの中では、出来れば在宅で生活したいとのアンケート結果が出ていたが、中等度以上に限ったアンケートではなかった。

小森委員：検討する中等度以上では難しい。例えば、在宅生活を送れる方。どれくらいのレベルの方を想定してグループワークするのか。

中山会長：分けた方が良いのかわるいのか。分けない方がよいのか悩んだが、分けた場合にどこまで委員の方々にイメージできるのか疑問を感じたため、分けない方が良いと思った。

小森委員：認知症が出てきた時に、どのようなことができるのかを検討することで十分なのではないか。Ⅱb以上と書いてあるが、地域の認知症の方にどのような関わりができるのか。

馬庭委員：沢山課題があるのに、なぜ認知症の高齢者を検討するのか。

事務局：現状と介護保険事業計画での対応策のプレゼンテーションの後に意見交換でも構いませんか。今の認知症の方を支えられていない現状の課題があると思われる。

①現状と対応策～第9期介護保険事業計画について、事務局から説明

・向こう三軒両隣会議 P64、身寄りのない人への支援体制整備 P66、ワーキングケアラーに対する

支援 P70、「たすけて」と言える地域づくり P71、認知症しあわせプラン P75～P77

事務局：向こう三軒両隣会議でまだまだ膝を交えて検討する機会が少ない。ワーキングケアラーで、認知症の方をケアしている家族が大変。地域ぐるみで助けてと言ひ合える町にするためにはどうすればよいのか。

馬庭委員：それが問題点で、これまでは認知症の方々の問題をここで議論するのではなく、脳耕会で議論する役割があったのではないか。

事務局：脳耕会では、一体的支援事業であったり、GRS 購入費用の助成であったり検討してきているが、認知症支援は地域づくりやケアマネジメント、医療と介護の連携などに横ぐしを通すものなので、地域包括ケアシステム推進会議でも認知症について検討して欲しい。

小森委員：課題がいたりきたりしている。次の計画を立てるときに間に合うのか。朝来市は、他市よりも、遅れていると思う。もっとスピード感を持って事務局は進めていってもらいたい。せつかく事務局会議ができたので、早めに動ける仕組みとなればと思う。

馬庭委員：スピード感がかけており、時間切れになってしまう。今話しあいを聞かされて、生の意見の抽出を2～3回集まっているこの会議で意見を抽出することで良いのか。本当はこの会議でこういう施策にすると決めないといけないと思う。課題を抽出するのはこの会議の場なのか。スキームをもっと検討する必要がある。

この会議にこの認知症のみをフォーカスして検討することでよいのか。フレイル予防等なぜ抽出されなかったのか。

事務局：事業計画は、どの項目もとても大事。看取りについては、ACP サポーターを公募している。

中山会長：なぜ認知症なのか。結論としてではなく、集まってもらう前に委員に諮る必要がある。

馬庭委員：まとめの会議であると思う。

②認知症高齢者の生活について

- ・朝来市認知症高齢者の生活の場 資料4
- ・ケアマネジャーアンケート結果から 資料5

足立委員：高齢者相談センターの数が入っていない。サービスに繋がっていない人の数が必要なのではないか。

事務局：その通りです。このデータには含まれていません。

足立委員：地域が見守りをしないといけない認知症の方がたくさんいるのではないか。

谷口委員：サービスに繋がっていない人が、ここに上がってきていない人が沢山いる。

【グループワーク】

1班 本人支援について

- ・近隣の人が火を出す、危ない状況になると、地域から排除されてしまう。
- ・情報をどこまで近所の人に伝えるかが難しい。
- ・火の始末、徘徊、車の運転、排泄ができなくなると近隣トラブルとなる。
- ・本人中心の支援となるのは難しい。
- ・周囲の方が理解してもらうことで、許容範囲が広がる。認知症サポーターが増えれば、知っている

人が増えると地域で生活しやすい環境となる。

- ・認知症であっても、参加できる居場所づくり。ミニデイも考えていく。

2班 家族支援について

- ・相談できる場所があれば良い
- ・認知症の理解を地域の方が学ぶ機会を作ることで、安心して過ごせるまちづくりとなる。
- ・早めの受診
- ・正しい知識の理解

3班 地域支援について

- ・地域支えとなると、その人と地域の人との関係性が重要となる。住民だけでは限界がある。
- ・家族の対応がどうなんだろう。元気なうちから地域に関わることの大切さ
- ・家族の愚痴を言う場、聞く場が必要なのではないかな。
- ・自治協で見守りしているところがある。

4班 専門職の支援

- ・早期対応ができていない。
- ・症状が悪化してから入院等となっている。
- ・本人が受診を嫌がっているため、認知症自体のイメージアップが必要なのではないかな。
- ・MCI としては早めに対応することが大切。・専門職へ繋げるまでの工夫が大切。
- ・MCI の啓発。健康診断の際にパンフレット等渡して良いのではないかな。

事務局：1班の居場所づくりの意見が出たが、もう少し聞きたい。

足立委員：認知症を発症すると自分から出かけることが出来ない。いきいき百歳体操を公民館で行っていても、なかなか参加できない現状がある。地域の方の声かけ支援などのちょっとした支援が必要と思う。

中山会長：ご本人が行ける場所、ご家族が行ける場所の認知症カフェが5ヶ所あると思う。

足立委員：ご本人さんに合う場所を見つけている。ご本人が落ち着いて過ごすことができる場所を見つける。認知症カフェは、ご家族にとっても良い場所となると思う。

馬庭委員：居場所を本人や家族に教える又は、誘う人が必要と思うが、個人情報があって近所の方をお願いすることは難しい。

足立委員：ご家族に確認し、近所の方に伝えて言いか確認して、情報提供を行っている。情報を伝える線引きが難しいと感じている。

中山会長：認知症カフェがどこにあるのかをどう周知しているのか。

事務局：医療機関に掲示や、ラインやフェイスブックに掲載予定

馬庭委員：生活支援コーディネーターはこの場合どう関わっているのか。

須磨副会長：個別の関わりの中で、認知症カフェやいきいき百歳体操等を紹介している

小森委員：紹介した場合に、数値化し市に報告することで、見える化する必要があると思う。

北川委員：担当ケアマネジャーが全ての社会資源を把握していることは難しい。

小森委員：社協の本来業務なのではないか。地域資源とどう繋げるかは、どれくらい紹介したかと数値化するとよいのではないか。

事務局：ケアマネジャー連絡会で周知。生活支援コーディネーターも入ってもらって、民生委員とケアマネジャーの連絡会を予定している。

須磨副会長：お宝マップを発行する予定。社協の広報や市の広報で5月に掲載予定（QRコード）。ミニデイやプチサロンには書面でお知らせ。

中山会長：認知症カフェのお知らせはしたことはあるのか。

須磨副会長：元気な方が多いため、認知症カフェという抵抗がある。認知症は、地域の理解が必要と思う。養父市が認知症に関する映画を上映してことがあった。

中山会長：養父市が認知症に関する映画を上映したことがあった。

前田委員：オレンジランプやケアニン。養父の実行委員をしている人が、朝来市もしてはどうか言われた。同じ映画を日付を変えて、養父市と朝来市で実施してはどうか。養父市の場合、事務局は社協であった。20～30人は朝来市在住の方であった。

事務局：養父市社協に確認して欲しい。

須磨副会長：確認はしてみます。

4 閉会のあいさつ 須磨副会長

この会議では、ワーキングで掘り下げた事を基に検討し、第8期の評価から第9期介護保険事業計画を策定。今後は、その計画を実現していきたい。

